

みんなが生きがいのある生活を 送れるように

北海道函館市 特定非営利活動法人おはよう共同作業所





函館駅から2つ目の桔梗駅で列車を降り、雪道を踏みしめながら住宅街を歩き、特定非営利活動法人おはよう共同作業所(代表・野澤朝子さん)を訪れる。同作業所は、1993年に開所した地域共同作業所で、現在は地域活動支援センター事業所として、重度の障がいを持ち就労の場を確保できないで在宅している人が、仲間とともに作業や活動を行い、生きがいのある・充実した生活を送ることができるよう支援と協力を行うことを目的としている。函館市内および近郊に住む15歳以上の障がいのある人を対象に、リサイクルと手づくり小物の製作と販売、日常生活の訓練、資源回収、地域行事への参加などを行っている。

作業所は月曜日から金曜日まで毎日開かれる。この日も朝9時に朝礼が行われ、利用者がテーブルを囲んでお茶を飲みながら今日の作業予定を確認する。利用者のあやかさんが「おはようございます」と挨拶し、作業所の1日が始まる。作業所は野澤さんの自宅1階にあり、広いリビングには、着物の生地や毛糸など、手づくりの小物に使われる材料がぎっしりと並べられ、利用者が役割を分担しながら作業を進めていく。布草履は1日に3足ほど作られる。着物をほどこき、裁断して糊付けを行い、紐状にした布をロープに編み込んで形にしていき、多くの手間をかけて完成する。通所15年目のあやかさんは、布草履に入れる商品カードに色鉛筆で彩りを加えていく。「底面も織り込み、かかとも台を付けている。ロープも特注したものと朝子さんがこだわりを教えてくれた。ずらりと並んだ草履は、どれも色合いが異なり見ているだけでも楽しい。「布地の材料となる着物は、地域の祭りで提供されたものや、団体や企業からの寄付を受けて再利用したものです」と話すのは朝子さんの長女・明美さん。常連客からまとめて注文が入ることもある人気商品となっている。

また、86歳の利用者、五十嵐さんはニット帽を編み、「毎日



ここに來るのが楽しみ」と話しながら、編み物の先生としての経験を活かして他の利用者に編み方を教えている。他の利用者からも「話をしやすい雰囲気良さを感じている」「作業所の手芸が楽しい」という声を聞くことができた。スタッフの1人は「どの人にも得意なものを見つけてあげられれば」と利用者をサポートする。

正午になると作業をいったん止めて、お昼ご飯の時間。明美さんが午前中から準備した、20kgの袋で仕入れたホクホクのメーカーインをたっぷり使ったカレーと煮物には地元の木ウドも並び、利用者たちは食卓を囲む。

その後、作業所が運営する無人販売所も訪れた。国道5号線沿いにあるユニットハウス型の無人販売所はヤマト福祉財団の助成を受けてスタートし、店内には近隣農家から提供された規格野菜として、にんじんやホウレンソウ、キャベツや白菜などが並ぶほか、作業所の手作り小物や廃油せっけん、寄付を受けた食器や衣服なども販売している。この日買物に訪れた近所の高齢者は「誰もいないので好きなものをゆつくりと見られる良さがある」と大根と芋をお買い上げ。明美さんは「ジャガイモとか重いものはいつでも届けるよ」と声をかける。

おはよう共同作業所は、地域に障がいのある子どもたちの居場所をつくりたいという思いから、平成5年に設立した。代表の野澤朝子さんの長男に障がいがあり、当時、函館市には義務教育終了後の障がい児を受け入れる養護学校の高等部や施設がなく、道南から離れた遠方の施設へ進んだ経験があった。そこで、どここの施設にも行けない子どもたちのために「自分で家を建てて障がい児の居場所を作ろう」と考え、ローンを組んで桔梗地区に自宅を建て、作業所として開放することにした。

「以前、暮らしの課題に取り組む生活学校運動に参加し、新



間紙や段ボールなどの資源回収、廃油せっけんづくりなどのリサイクル活動を行った経験が、現在のリサイクル品から小物を作る活動にも繋がっている」と朝子さんは振り返る。イカ釣り用の重りを加工する作業も行うなど、函館ならではの仕事を請け負ったこともあった。

様々な障がいのある人を受け入れ、作業を分担しながら一つの製品を完成させていく。作業所の利用者にとっても、自分が作った小物が販売され、還元されることは喜びがある。明美さんはこれまでの活動で「一人ひとり得意なことは異なり、やってみなければわからない」ことを実感していると話す。ただし「無理しないことを一番大事にしている」と、利用者の特性と健康状態を見極めながら作業所を運営する。

作業所の運営には明美さんが法人の運営や営業に携わるほか、朝子さんの次男・大さんも加わり、事務作業や送迎を分担している。明美さんや大さんは地域の農家や商店や事業所と幅広い繋がりがあり、農家からの規格外野菜や近隣のパン屋さんから安く仕入れた品物を無人販売所やイベントで販売したり、地域の方に喜ばれることもある。「自分たちで農業をやることまでは考えていないけれど、地域で協力しあう関係でいたい」と明美さんは語る。

30年以上続けてきたおはよう共同作業所。朝子さんと明美さんは「これまで作ってきた製品を少しずつ整理しながら、できる範囲で続けていきたいと考えている。雪が解け春になれば無人販売所の棚もにぎやかになる。地域の方々に喜んでもらえる活動をこれからも続けたい」と笑顔で語ってくれた。

【連絡先】特定非営利活動法人おはよう共同作業所
 北海道函館市桔梗町59-88
 TEL0138-49-0280
 メールohayou@msb.ncv.ne.jp